

◇イベント報告◇

IFRS 財団バーチャル・カンファランス報告

ASBJ デイレクター 越智 淳
SSBJ 専門研究員 江口 智美

1. はじめに

IFRS 財団は、IFRS 財団カンファランスを毎年 1 回開催しており、今年のカンファランスは、国際会計基準審議会（IASB）及び国際サステナビリティ基準審議会（ISSB）が合同で、6 月 26 日及び 27 日の 2 日間にわたり、英国のロンドンにおいて、対面及びオンラインのハイブリッド形式で開催した。また、初日の 6 月 26 日には、ISSB の初のサステナビリティ開示基準も公表され、記念すべきカンファランスとなった。世界 60 ヶ国から代表が参加し、企業会計基準委員会（ASBJ）及びサステナビリティ基準委員会（SSBJ）から筆者がオンラインで参加した。

2. 全体スケジュール

今回の会議の議題は、次のとおりであった。

	議 題	担 当
2023 年 6 月 26 日		
1	開会の挨拶	Fred Nieto 氏（IASB）
2	IASB 議長による基調講演	Andreas Barckow 氏（IASB 議長）
3	ISSB 議長による基調講演	Emmanuel Faber 氏（ISSB 議長）
4	ゲストによる基調講演	Julia Hoggett 氏（ロンドン証券取引所グループ）
5	IASB と ISSB の共同アップデート	Sue Lloyd 氏（ISSB 副議長）、 Linda Mezon-Hutter 氏（IASB 副議長）

イベント情報

6	<p>選択方式のセッション</p> <p>(1) 基本財務諸表</p> <p>(2) 金融商品アップデート</p> <p>(3) 企業結合－開示、のれん及び減損</p> <p>(4) IFRS 会計基準の一貫した適用：最新の情報</p> <p>(5) IFRS S 1 号及び S2 号¹の開始に必要な不可欠なバックグラウンド</p>	<p><u>(1) から (3)</u></p> <p>IASB 理事、IASB スタッフ</p> <p><u>(4)</u></p> <p>司会： Bruce Mackenzie 氏 (IFRS IC 議長)</p> <p>パネリスト： Ann Tarca 氏 (IASB 理事)、 Renata Bandeira 氏 (Azul Airlines)、 Brian O'Donovan 氏 (KPMG)</p> <p><u>(5)</u></p> <p>Mardi McBrien 氏 (IFRS 財団)、 Lois Guthrie 氏 (ISSB)</p>
2023 年 6 月 27 日		
7	<p>パネル・ディスカッション - 財務報告における長期的リスクと不確実性の反映</p>	<p>イントロダクション： Nick Anderson 氏 (IASB 理事)、 Richard Barker 氏 (ISSB 理事)</p> <p>司会： Mardi McBrien 氏 (IFRS 財団)</p> <p>パネリスト： Isabelle Grauer-Gaynor 氏 (欧州証券市場監督局 (ESMA))、 Ian Kramer 氏 (AngloGold Ashanti²)、 岩崎伸哉氏 (デロイト)</p>

¹ IFRS S1 号「サステナビリティ関連財務情報の開示に関する全般的な要求事項」及び IFRS S2 号「気候関連開示」

² 南アフリカ共和国を拠点とする金鉱山企業

イベント情報

8	<p>選択方式のセッション（2回開催）</p> <p>(1) 基本財務諸表</p> <p>(2) 企業結合－開示、のれん及び減損 （1回目のみ）</p> <p>(3) 金融商品アップデート（2回目のみ）</p> <p>(4) IFRS 会計基準の一貫した適用：最新の情報</p> <p>(5) IFRS S1 号のイントロダクション：全般的要求事項</p> <p>(6) IFRS S2 号のイントロダクション：気候関連開示</p>	<p><u>(1) から (4)</u></p> <p>6/26 の項目 6 と同様</p> <p><u>(5) 及び (6)</u></p> <p>ISSB 副議長、ISSB 理事、ISSB スタッフ</p>
9	<p>Q&A セッション</p>	<p>司会：</p> <p>Nili Shah 氏（IASB）</p> <p>パネリスト：</p> <p>Andreas Barckow 氏（IASB 議長）、</p> <p>Linda Mezon-Hutter 氏（IASB 副議長）、</p> <p>Sue Lloyd 氏（ISSB 副議長）、</p> <p>Richard Barker 氏（ISSB 理事）</p>

3. 主な議事概要

(1) IASB 議長による基調講演

IASB 議長 Andreas Barckow 氏による基調講演



IASB 議長の Andreas Barckow 氏が、社会・経済における不確実性が高まっている現在の環境下において、資本市場の効率性を向上させるための IASB の取り組みについてスピーチを行った。

最初に、IASB は、必要な際には環境変化に緊急で対処すると述べ、その例として「国際的な税制改革-第2の柱モデルルール (IAS 第12号「法人所得税」の改訂)」について紹介した。

次に、基準設定においては、利害関係者のフィードバックに基づき、さまざまなニーズのバランスを取ることが重要である旨を強調した上で、2026年までの5ヶ年計画における無形資産及びキャッシュ・フロー計算書のプロジェクトに着手する前に、すでに取り組んでいる他のプロジェクトを完了させるか、少なくとも大幅に前進させる予定であること、及び既存の要求事項を改善した例として「サプライヤー・ファイナンス契約」(IAS 第7号「キャッシュ・フロー計算書」及び IFRS 第7号「金融商品：開示」の修正)の公表について述べた。

イベント情報

最後に、不確実性の時代においては、企業が資本市場に対して明確なストーリーを語り、投資家コミュニティとコミュニケーションを取ることが重要であり、その中でIFRS会計基準は「嵐の中の錨」となることができるとした上で、2024年には基本財務諸表に関する新たな会計基準を公表する予定であると述べた。

(2) ISSB 議長による基調講演

ISSB 議長 Emmanuel Faber 氏による基調講演



ISSB 議長の Emmanuel Faber 氏より、ISSB の初の基準となる、IFRS S1 号「サステナビリティ関連財務情報の開示に関する全般的な要求事項」(IFRS S1 号) 及び IFRS S2 号「気候関連開示」(IFRS S2 号) が同日 (6 月 26 日) に公表されたことが発表された。

IFRS S1 号及び IFRS S2 号は、グローバルにおいて一貫性のある包括的なサステナビリティ開示基準として、一般目的財務報告書の主要な利用者の情報ニーズを充足し、よりレジリエントな経済の構築に貢献していくことが期待されるとの説明がなされた。

また、ISSB の基準は、IASB の基準で用いられる概念及び用語を活用した「会計の言語」であり、「サステナビリティ」を会計の言語で説明 (translate) したものと捉えられると説明された。

さらに、ISSB の基準は、報告範囲の拡大 (報告企業のバリュー・チェーンまで拡大) 及び時間軸の拡大 (短期、中期及び長期についての開示を要求) という観点から、財務

イベント情報

諸表が対象とする範囲及び時間軸を超えた範囲についての開示を可能にするとの説明がなされた。

加えて、統合報告フレームワークを用いて、価値創造の観点から「サステナビリティ」を説明することで、サステナビリティ関連財務開示と経済とのつながりを明確にし、現在及び予想される財務的影響についての開示を求めることで、サステナビリティ関連財務開示と財務諸表とのつながりを明確にしているという旨が説明された。

最後に、IFRS S1 号及び IFRS S2 号の公表は、これから ISSB が歩む道程の開始点に過ぎず、今後はこれらの基準の適用を促すため、キャパシティ・ビルディングに関する活動を行うことが必要であるとの説明がなされた。また、より多くの企業が、IFRS S1 号及び IFRS S2 号を適用することを期待しているとの説明がなされた。

(3) ゲストによる基調講演

ロンドン証券取引所グループ CEO Julia Hoggett 氏による基調講演



ロンドン証券取引所グループの CEO である Julia Hoggett 氏によって基調講演が行われ、ISSB の初のサステナビリティ開示基準の公表について歓迎の意が示された。

また、ネット・ゼロの目的を達成するためには世界経済全体が共通の基盤で動くことが必要であり、そのためにはサステナビリティ開示基準が高品質であることに加え、公平性 (equitable)、アクセス可能性 (accessible) 及び段階的 (iterative) という 3 つの規準を備えることが必要であるという旨が強調された。

イベント情報

加えて、IFRS S1 号及び IFRS S2 号は、企業、投資家及び地球に対して、公平な競争の場を与えるグローバル・ベースラインとしての役割を果たすだろうとの説明がなされた。

(4) IASB と ISSB の共同アップデート

IASB 副議長の Linda Mezon-Hutter 氏と ISSB 副議長の Sue Lloyd 氏より、IASB と ISSB の現在のプロジェクト及び今後の優先事項について説明がなされた。

IASB 副議長の Linda Mezon-Hutter 氏と ISSB 副議長の Sue Lloyd 氏



IASB 副議長の Linda Mezon-Hutter 氏から、IASB の各プロジェクトでは、さまざまな利害関係者によるニーズのバランスを考慮しており、現在募集中又は今後募集予定の公開協議に対して、多くの利害関係者からフィードバックが提供されることを期待しているという旨が強調された。

ISSB 副議長の Sue Lloyd 氏からは、IFRS S1 号及び IFRS S2 号の全体概要が説明され、他のサステナビリティ開示基準又はフレームワークとの相互運用可能性（interoperability）が大事であるという旨が強調された。

また、ISSB と IASB のつながり（connectivity）について、IFRS 財団の考え方が説明された。その上で、ISSB と IASB において、つながりに関して行われている活動の状況が説明された。

(5) パネル・ディスカッション - 財務報告における長期的リスクと不確実性の反映

パネリストによる意見交換



パネル・ディスカッションに先立ち、ISSB 理事の Richard Barker 氏により財務報告におけるサステナビリティ関連財務開示と財務諸表について説明がなされ、これら両方を合わせて財務報告が構成されることが強調された。

また、IASB 理事の Nick Anderson 氏は、IASB の作業計画に追加された気候関連リスクに関するプロジェクトが 2023 年 3 月に正式に開始され、今後、財務諸表が気候変動リスクに関する情報をより適切に伝達する方法を検討するものの、本プロジェクトでは、気候変動に特化した会計基準の開発、財務諸表の目的の拡大、又は資産及び負債の定義の変更について、これらを行う意図はない旨が述べられた。

パネル・ディスカッションでは、財務諸表作成者、規制当局及び監査人の立場から、財務報告に関して議論が行われた。具体的には、長期的に重要性のあるリスクへの対応方法、長期的なリスク及び機会に関する報告を行う際の考慮事項、サステナビリティ関連財務開示に関する統制及び保証における課題、つながり（connectivity）における課題について意見交換がなされた。また、組織内の異なる部門及びチームが交流を増やし、サイロ及び点を結びつけること、並びに適切なガバナンス及び経営者の関与が重要であることについて、認識が示された。

以上